

令和2年度 都城市立沖水小学校 学校評価報告書

学校評価の結果・考察

「自己評価」「自己評価の適切さ」 = 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

	質問内容	学校の自己評価			学校運営協議会の評価	
		結果の考察・分析	評価	改善策	評価	意見等
学校の教育活動全体	1 子どもたちは学校に楽しんで行っていますか。	児童87%、保護者94%、教師98%が肯定的な評価である。3者の割合は、昨年度と比較しても向上している。	3	キャリア教育を更に充実させ、役割や目標をもたせ、達成感を味わわせる指導を行う。登校を渋る児童へスクールカウンセラー等による教育相談を勧めていく。		○昨年度より向上していることは評価できる。今後もカウンセラーの教育相談を続けてほしい。 ○児童・保護者・教師に対する考察・分析・改善策等で、特に児童の個に応じた教育指導を評価する。 ○登校時は笑顔があまり見られないので、どうかと思っていた。 ○「児童87%」の割合を増していければよい。昨年度より向上していて安心した。 ○この項目がもっとも注目すべきところだと考える。その意味で、9割の子どもが学校に行くことを楽しみにしていることが大変喜ばしいことだと考える。
	2 学校（先生）は、学校や子どもたちのことを考えて、一生懸命に取り組んでいますか。	児童95%、保護者94%、教師98%が肯定的な評価である。コロナ禍の中、学校の取組が評価されていると考える。	3	教師は、児童一人一人のがんばりを認め、褒めることを継続し、学級づくりに努めていく。	3	○学校・教師の取組を今後も継続してほしい。 ○児童一人一人の短所を補い、長所を伸ばしていく教育にメリハリのある創意工夫がある。 ○本年度は、コロナ禍で学校全体が大変だったと思うが、いろいろな対策・取組ありがとうございました。 ○3者とも100%に近い評価で素晴らしい。また、欠席数、不登校数が大変少ないとお聞きしている。先生方のきめ細かい指導の賜物なのでしょう。
	3 あなたは、参観日や学校行事、PTA活動に進んで参加していますか。	昨年度同様、児童96%、保護者92%、教師95%が肯定的な評価である。行事や参観日の制限があったが、その中で保護者が関心をもって行事等に参加できたと考えられる。	3	新型コロナウイルス感染防止に努めながら、教育活動の工夫を今後も行っていく。保護者の駐車場を十分確保することは、なかなか難しい状況である。		○行事の制限はあったが、コロナ対策等を含め、保護者の協力がよかった。 ○コロナ禍の中、工夫されて参加者が多いのがよい。 ●保護者の参観日の出席率が毎回のように低調である。特に、懇談会では多く見られる。 ●駐車場の確保は、地域との連携が必要である。 ○多くの行事が中止となる中、数少ない行事となったことで、一つ一つの行事を大切に取り組む結果となったのだろう。そうだとするとこれも3者とも100%に近い数値となっており、大変素晴らしい結果だと思う。
学力向上	1 先生は、子どもたちに確かな学力を身に付けるために、分かりやすい授業をしていますか。	児童、保護者、教師の3者とも評価が高くなっている。これからも児童が分かりやすい授業を行い、学力を向上させる必要がある。	3	これからも主題研究等の職員研修を行い、指導力を高める指導方法の工夫・改善に努めていく。また少人数指導や個別指導の在り方の工夫、そして次年度より一人一台のタブレット配付があるので、ICTを活用した教育を推進していく。		○児童一人一人の短所を補い、長所を伸ばしていく教育にメリハリのある創意工夫がある。 ○ICT教育は、期待している。 ○11月の小中一貫教育研究会での国語の授業を参観させていただいたが、主題に即した確かな実践をされていると感じた。
	2 先生は、子どもの学習への意欲（やる気）を引き出していますか。	児童は、84%が肯定的な評価でやる気を引き出されていると感じている。保護者も昨年度と比較すると、4%割合が向上している。児童のがんばりを認め、褒める指導を継続する必要がある。	3	今後整備される一人一台のタブレットを活用して教師が視覚的に資料を提示したり、児童が意欲的に調べたり、ポートフォリオ（学習で制作した作品集等）による自分のデータを保存したりできる学習を工夫していく。		○児童一人一人の短所を補い、長所を伸ばしていく教育にメリハリのある創意工夫がある。 ○教育課程の完全実施に向けての評価の研究に苦労されたところだと考える。子どもの学習への意欲につながる評価はととても大切だと思う。
	3 子どもたちは、学習のきまり（話し方、聞き方等）を身に付けていますか。	教師は、77%が肯定的な評価である。しかし、児童は87%できていると感じている。学習の基本となる話を聞く態度を継続して身に付けさせる指導をすることが大切である。	3	主題研究にある「聴く」指導や小中一貫教育で作成している沖水スタンダード（小中共通の学習規律）による指導を継続して行い、できていることを褒めて意欲を高めていく。	3	○児童一人一人の短所を補い、長所を伸ばしていく教育にメリハリのある創意工夫がある。 ●中学校でも人の話をしっかりと聞くことが苦手な生徒が多い状況がある。沖水スタンダードの徹底を小中でさらに徹底できるとよい。
	4 子どもたちは、読書を進んでしていますか。	図書担当や図書館サポーター、学級担任の指導により、学校で児童は80%、教師は93%が肯定的な評価である。保護者は、家庭での読書の日の取組が課題として捉えられ、59%が肯定的な評価にとどまっていると考えられる。12月末現在、児童一人あたり84冊の読書量である。	3	児童は昨年以上に読書をしているので向上しているが、水曜日の読書の日の取組は課題であると保護者は考えている。そこで、学級での読書指導を継続させ、読書の日・ノーマディアの日は読書貯金にサインをもらったり、読書便りに写真を掲載したりして、保護者への啓発も行う。また、PTA保体部と連携して学校保健委員会の取組で、「我が家のノーマディアの取組」を行う。		○読書力向上のため、あらゆる手段を講じ、自らが進んで本に向き合う取組を評価する。 ●水曜日の読書の日の改善を期待している。 ●読書の取組、水曜日のノーマディアデーは、保護者の協力・意識が大切である。PTA活動で保護者に考えてもらう機会を増やし、継続すべきと思う。 ○今年は、PTA活動もコロナの関係で家庭への啓発が難しかったのではないかと。以前は学校によっては、「家読」（うちどく）という取組がよくなされていた。
	5 子どもたちは、毎日、家庭での学習をする習慣が身に付いていますか。	家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いと考えられるが、身に付いていない児童は固定化しており、個人差がある。保護者の協力で家庭学習に取り組んでいるが、保護者の意識に差もあると感じる。	3	家庭学習への保護者へ協力を働きかけたり、効果的な家庭学習を紹介するなど児童への働きかけや指導を行ったりする。また、児童の実態に応じた課題にするといった工夫が必要である。		●家庭学習は、保護者の協力が大切だと思う。 ●家庭学習の習慣が身に付いている児童と身に付いていない児童の個人差が大きいと思う。 ●地域の学習支援活動につながる取組があるとよい。 ●学力向上のためには、授業と家庭での学習の充実が大切であると考えられる。学習習慣の確立と学年に応じた家庭学習の質と量の向上が図れるとよい。
	1 子どもたちは、気持ちのよいあいさつを進んでいますか。	児童は82%、保護者は65%、教師は48%が肯定的に捉えている。児童と保護者は、昨年度より向上している。特に2学期は、毎朝、生徒指導主事等が放送で意識付けを図ったり、児童のあいさつ隊の啓発により意識が向上したりしている。教師の評価が低くなっているのは、評価基準が「元気よく、明るく、大きな声で」だからであろう。また、児童はマスクを着用しており、がんばってあいさつをしているが、声が聞き取りづらくなっているのではないかと考えられる。	3	全校でスローガンを作ったり、あいさつができていた児童を褒めたりして意欲付けをする。また、ソーシャルスキルを取り入れた学習等の授業の工夫し、具体的な指導をする。		○登下校時は、元気よくあいさつができています。 ●班により差もある。 ○「あいさつ」は、登校時、児童の見守り活動時で、比較的以前よりは良くなっている。あと少しである。 ○マスクで口元が見えないので、できるだけ目を合わせるように努めている。 ○個人個人で、声の大小はあると思うが、あいさつする意識は、児童や学校全体であると感じている。 ○コロナ禍の中、あいさつの声の大きさには大変気を遣うところだと思う。以前であれば、明るく大きな声でのあいさつは大変褒められるあいさつだが、現状では新しい生活様式に応じたあいさつが必要であるので、評価基準を設けられたのはとてもよいことだ。

心の教育	2 子どもたちは、友達と仲良くしたり人に親切にしたりすることができますか。	児童、保護者、教師ともに高い評価である。命を大切に取る取組で実態を把握し、指導に生かしている。言葉遣いや人間関係に課題がある児童もいる。	3	アンケートや日頃の児童の様子を観察などで実態把握を行い、問題解決に努めていく。また、ソーシャルスキル(人間関係づくりの技能)を取り入れた学習等の授業の工夫を行い、具体的な指導を行う。	3	○友達同士での人間関係づくりには、日頃の児童の行動に良好な状態が表れている。
	3 学校(先生)は、人権に配慮するとともに、いじめのない学校及び学級づくりに取り組んでいますか。	全体的にできていると考える。学校では、コロナ禍で全体や各学級で人権に関する指導や啓発に努めてきた。教師の人権に関する意識を更に高める必要もある。	3	児童へ学校の教育活動全体を通して人権に関する指導を行う。また、教師は常にアンテナを高くし、気になる児童には声かけを行う。コロナ禍での人権に関する指導を継続して行い、人権意識を高めていく。教師の人権意識を高める研修も充実させていく。		○学校全体にダメージを与えるような「いじめ」問題はなく、日頃の啓発活動により良好に保たれている。 ○人権は、奥が深いと思う。
	4 子どもたちは、学校のきまりや交通安全、公衆道徳などのきまりを守っていますか。	児童と保護者は、高い評価であるが、教師は、72%にとどまった。頭をけがする交通事故等もあり、児童の安全指導を継続していく必要がある。また、問題行動には適宜対応している。	3	特に、命に係わる交通安全指導を行い、危険予知能力や危険回避能力を更に高める指導を継続する必要がある。また、廊下歩行などの学校のきまりができない場合には、すぐに現場指導を行うようにする。さらに、PTAと連携してヘルメット着用を勧め、PTAでは、見守り隊への依頼や感謝を伝える取組を考えている。		○見守り隊の方々には本当に感謝している。事故を完全に無くすのは無理ですが、ヘルメット着用は、危険回避能力の向上としてよいと思う。 ●下校時や自宅に帰ってからのマナーについては、保護者を含めて安全指導を徹底する必要がある。 ●沖水地区は、市内でも交通事故が大変多い地区だと警察の方から聞いた。その意味では、定期的に指導や啓発をしておくことが大切だと考える。
	5 子どもたちや先生は、清掃や美化活動(環境整備)に努めていますか。	児童、保護者、教師ともに約90%が「できている」と答えている。無言清掃に課題があるが、一生懸命に清掃に取り組む姿が見られる。	3	清掃指導を徹底していく。特に、無言清掃については、事前指導や現場での指導をしっかりと行う。		○学校の自己評価と概ね同じである。 ●無言清掃は、小中共通して取り組んでいる。小学校で徹底されると、中学校での指導もスムーズにできると思う。
健康安全・体力向上	1 子どもたちには、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いていますか。	概ねできているようだ。昨年度と比較しても向上している。しかし、朝食を食べずに登校したり、遅刻をしたりする児童もおり、家庭環境の差も感じる。	3	学校で行っているアマビエチェックを継続し、「早寝・早起き・朝ご飯」について指導する。また、アマビエチェックの様子等を保護者に知らせ、家庭への啓発や呼びかけをする。	3	○健康管理は、第一に家庭で指導・しつけが大切であり、特に朝ごはんを食べさせることが健康のパロメーターと考える。 ○民生委員が協力できることがあれば、連絡してほしい。 ●日々の習慣だが、家庭環境で随分差が出ると思う。保護者への呼びかけが必要だと思う。 ○アマビエチェックのネーミングがとてもよく、子どもも保護者も取り組みやすいと思う。
	2 子どもたちには、歯磨きの習慣が身に付いていますか。	概ねできているようだ。昨年度と比較して向上している。給食後の歯磨きはよくできている。保護者の16%が低い評価となっており、家庭での歯磨きも課題となっている。むし歯の治療率は、1月末現在で、71.5%である。	3	保護者への呼びかけを継続して行い、家庭での歯磨きが定着できるようにする。		○健康管理は、第一に家庭で指導・しつけが大切であり、特に歯磨きをさせることが健康のパロメーターと考える。 ●保護者への呼びかけが大切である。 ●中学校でのむし歯の治療率が、部活動を優先してしまいなかなか上がらない状況である。小学校も高学年になるとスポーツ少年団活動の影響があると思う。しかし、新型コロナウイルス感染症が終息しないと難しい側面もあると思う。
	3 学校は、安全管理や事故防止、コロナ対策・予防に努めていますか。	3者ともに高い評価である。特に、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための取組を評価している結果であると考えられる。	3	学校で行っているアマビエチェックを継続し、「コロナ対策」等の指導を行う。また、アマビエチェックの様子を保護者に知らせるなどして、家庭へ啓発する。		○学校の自己評価と概ね同じである。
	4 子どもたちは、進んで運動していますか。	コロナ禍の中で体力の向上が心配されたが、児童や教師は学校での様子から高い評価である。保護者の評価が低いのは、外で遊べない時期があったり、ゲーム等に依存したりする児童もいるのではないかと考えられる。	3	学校で行っているアマビエチェックを継続し、児童へ外遊びを推奨する。また、アマビエチェックの様子を保護者に知らせるなどして、家庭へ啓発する。コロナ禍の中、体育の時間でなわとび運動等にも取り組ませ、体力の向上を図る。		●児童が外で遊ぶことが少なく、ゲーム遊びがほとんどと言っても過言ではないと思う。したがって、体力の衰退になっていると考える。
連携・その他	1 学校は、教育方針や教育課題等を分かりやすく伝えていきますか。	課題と情報の共有を教育的課題に掲げているが、学校便りや学級通信、安心安全メール等で様々な情報を発信することができた。3者ともに高い評価である。また、経年変化を見ても、高い評価である。	3	次年度も安心安全メールの全家庭加入に取り組み、「早く、一斉に、確実な」情報伝達の整備に努める。	3	○学校のあるべき姿を保護者にも的確に伝え、全ての面において分かりやすく理解させている。 ○コロナ禍の中、安心安全メール等の情報伝達の方法は保護者にとって大変よいと思う。特に、学校連絡網で連絡する手間が省けて好評なのではないか。
	2 先生や学校は、お子さんのことについて相談がしやすいですか。	教師は、相談をできていると感じているが、それと比較すると児童、保護者は若干低くなっている。保護者は夏季休業の個人面談を実施したが、参観日等の行事の制限も影響で学校に来校する機会が少なくなったことも影響したのではないか。	3	アンケートで気になる児童には、声かけを行ったり、教育相談を実施したりする。また、スクールカウンセラーによる教育相談も実施し、課題の解決に努める。		○学校のあるべき姿を保護者にも的確に伝え、全ての面において分かりやすく理解させている。 ○年度途中からではあったと思うが、小学校にもスクールカウンセラーが導入され、有効活用されてよかったのではないか。
	3 学校は、地域の教育を取り入れた教育活動を実践していますか。	例年と比べて、コロナ禍の中で教育活動が制限され、地域の人材や素材を活用して学習を進めることができなかつたため、教師の評価は、75%の評価にとどまった。	3	コロナ禍の中、人と人との接触の機会を減らし、ICTを活用して、今後は地域の人材や素材が活用できないか模索していく。		○学校のあるべき姿を保護者にも的確に伝え、全ての面において分かりやすく理解させている。 ●新しい交流方法の提案をしてほしい。
全体	<p>【考察・分析】 令和元年度や平成30年度の学校評価の結果を比較すると、児童、保護者、教師の3者ともに、60項目のほとんどの項目で肯定的な評価が向上している。コロナ禍の中での保護者、児童、学校がともに一つとなってコロナ対応をしてきた結果でもあると思われる。</p>				<p>○令和2年度は、コロナ禍であまり協議できなかつたが、過去の評価と比べ向上しているものと思料する。 ○コロナ禍の中で、家庭環境の変化があった児童で、情報共有の必要性があったら、連絡してほしい。 ●コロナ禍で行事等が中止になって参加できず、様子が分からなかつた。 ○コロナ禍の中で、守るだけではなく、育てていく教育の現場のすばらしいリーダーシップがよい評価結果となっている。 ○大変な状況下ではあると思うが、様々な取組にチャレンジされ、学校運営がよりよくなっていると思う。あとは、各家庭・保護者の意識向上のための有効な取組があればよいと思う。 ○運動会での「児童代表の言葉」を読み、感動がよみがえった。</p>	